

- ① ・世界基準の医療安全を評価する JCI 認証。
名大病院は高評価を得て2度目の更新を果たしました。
・退職のご挨拶
- ② ・「失った声を取り戻す
～ Save the Voice プロジェクト～」
クラウドファンディングへのご支援のお願い

- ・令和6年度鶴舞公開講座を開催
- ・電子処方箋開始
- ・院内患者図書室（つくし文庫）の再開について
- ・ナディック通信
- ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願いします
- ・かわらばん HP のご案内

特集 TOPICS ① 世界基準の医療安全を評価する JCI 認証。 名大病院は高評価を得て2度目の更新を果たしました。



名大病院は、2024年11月、国際的な医療施設評価認証機関である JCI（Joint Commission International）の認証を更新しました。今回で2度目となる更新の意義や取り組みの内容について、病院機能改善本部の皆さんにうかがいました。



▲（右から）病院機能改善本部長 丸山 彰一 病院長、
病院機能改善本部副部長 松下 正 病院長補佐、同 梶山 広明 副病院長

国立大学病院の中では唯一の認証施設

JCI は「医療の質」と「患者安全」の向上を目的に、世界で最も厳格な基準を設けている認証機関です。名大病院は国立大学病院の中で唯一 JCI 認証を取得しており、2019年の初回認証以来、3年ごとの更新審査に対応してきました。

既に当院では医療安全と業務の品質について定める方針・手順書を院内で共有し、日頃の業務改善が定着しています。そのため今回の更新では15領域1265にも及ぶ評価項目の審査において、前回以上に高い評価を得ることができました。職員3000人規模の大規模病院で一致団結して事にあたるのは大変なことですが、「医療の質」と「患者安全」の向上を目指し、全員が心一つに取り組み続けた日々が結果につながったと思います。客観的な視点からの高評価は職員の誇りとなり、院内の安全文化の醸成を確信するものでした。

将来のリスクを回避し、
医療安全を追求

世界的に見ても、医療事故は病院の日常業務の中のささいなことが原因で起きている場合が少なくありません。そこで当院では JCI の基準に沿って業務を仕組み化し共有することで、起こりうるリスクを回避する安全対策を講じています。例えば、患者誤認を防ぐために患者さんの名前や生年月日を複数回確認する手順もその一つです。取り扱いに注意が必要な薬剤については、色分けや整理の方法を全病棟で統一し、緊急時でも誤投与が起らない管理をしています。また、転倒・転落防止対策として外来からリスクの高い患者さんを職員が認識し、適切なサポートを提供できる体制を整えています。加えて、世界の事例に精通する JCI の情報や指摘をもとに、未然の防止策を率先して取り入れています。

「安全」という当たり前を守り抜くために

JCI 認証の更新を終えても、当院の改善活動は終わることはありません。病棟や診療科からの代表者約150名より組織される品質改善のチームでは、毎月1回、リモート会議を行い、各部署へ情報をフィードバックしています。こうした医療安全・品質改善の活動は院内各職員の連携にも功を奏し、救急患者さんの受け入れでも一層スムーズに協力して対応できるようになりました。

先進的な医療の提供は医療機関にとって重要な要素です。しかし、その土台を支えるのは揺るぎない安全性です。安全は決して当たり前のものではなく、それを守るためには患者さんからは見えない部分まで意識を高め、徹底していくほかありません。また、病気が良くなることだけに限らず、看護師のちょっとした心遣いや対応、会計の待ち時間、院内の清潔さ、入院生活の快適性など、病院の質に関わる要素はさまざまです。今後とも患者さんに選ばれる病院であるために、当院は病院全体で「医療の質」と「患者安全」を高める不断努力を続けていきます。

退職のご挨拶

医療機器総合管理部長／臨床工学技術部長／病院教授 藤原 道隆



医療機器総合管理部長、臨床工学技術部長、メディカルXRセンターを担当しておりましたが、3月末をもちまして前職を退職いたします。運営に多大なご協力ありがとうございましたことを深く感謝申し上げます。私は平成5年から勤務しておりますが、大半の建物が更新され鶴舞地区の風景はすっかり変わりました。そして、建物以上の大きな変化は、「診療もしている研究機関」から、患者中心の病院の側面が飛躍的に充実したことです。患者安全や情報公開の点でもわが国屈指の存在になりました。今後は市中病院の舵取りを行うこととなりますが、名大病院で学ばせていただいたことを地域の病院に還元していきたいと思っております。ありがとうございました。

先端医療開発部長／病院教授 水野 正明



今年度で退職となります。先端医療開発部長の水野正明と申します。2000年代、名大病院にはなかった医薬品、医療機器、再生医療等製品の研究・開発支援組織を立ち上げ、2010年代には文部科学大臣認定の橋渡し研究支援機関、並びに厚生労働大臣承認の臨床研究の中核病院へと発展させてきました。この間、歴代の病院長、名古屋大学総長、東海国立大学機構機構長の多大なご指導やご助言に加え、医師、看護師、薬剤師、検査技師、その他先端医療開発に携わる多くの方々からご支援をいただきました。本組織が今後も世界の次世代医療開発拠点として発展していくことを願っています。

医療技術部長／診療放射線技師長 阿部 真治



昭和62年名古屋大学に診療放射線技師として入職し、この3月末に定年退職を迎えることとなりました。皆様のご支えとご指導のおかげで、ここまでこれたことに深く感謝申し上げます。また、平成29年に診療放射線技師長、令和3年に医療技術部長を拝命し、中央診療部門で業務する医療技術職の課題に取り組みでまいりました。医療技術職は医師や看護師と密接に連携して患者さんの診療に当たります。今後も名大病院の医療技術者が安全かつ最新の医療技術を提供し、患者さんから信頼を得られるよう努めることを願っております。長い間本当にありがとうございました。

事務部／部長 藤江 進



この度、令和7年3月末をもって名古屋大学を退職いたします。これまで共に歩んでまいりました事務職員はもとより、ご指導・ご支援くださいました研究科及び病院教職員をはじめ関係の皆様により感謝申し上げます。私は大学勤務のうち16年間を病院管理職として運営に携わらせていただき、教育研究、診療、地域貢献等に精一杯尽力する教職員の姿をずっと見てまいりました。一方で、東日本大震災時の医療支援や新型コロナウイルス感染症に対する医療者の姿も脳裏に焼き付いております。平時であっても災害時であっても最後の砦として活動する大学医学部・病院での勤務を最後に退職できることをとても嬉しく思います。

TOPICS ② 「失った声を取り戻す～Save the Voiceプロジェクト～」クラウドファンディングへのご支援のお願い

プロジェクトリーダー 耳鼻咽喉科 准教授 西尾 直樹

＝ご寄附についてはこちら＝

目標金額：**300**万円
募集終了日：**2025年4月30日**
方法：銀行振込、クレジットカード
寄附金額：**3,000**円から
詳細は名古屋大学クラウドファンディング HP をご覧ください。
<https://readyfor.jp/projects/SavetheVoice>



これまで当院では、多くの患者さんの声を保存しており、音声変換技術にて自分の声を再生してきました。しかし、人員と予算の制限のためまだまだ多くの救える「声」を救えていません。そこで、全国のがんセンターなどと協力して、より多くの患者さんの声を救うために、資金援助をお願いしております。皆さまの本プロジェクトへの温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

声はその人の人生そのものです。しかし、今でも、がんなどの病気によって声を失ってしまう患者さんが多くいらっしゃいます。現状では一度失った自分の声を取り戻すことはできません。そこで名大病院では「声を取る」手術を予定している患者さんに対して、術前の自分の声を保存しておく「Save the Voice プロジェクト」を始めました。このプロジェクトは、手術前の自分の声を収録・保存すること、機械学習の技術を用いて手術後の代替音声から自分の声へ変換することの二つを目的としています。



令和6年度鶴舞公開講座を開催

令和6年12月14日(土)に、令和6年度名古屋大学鶴舞公開講座を開催しました。同講座は、平成17年度から、医学部と附属病院が共催で、年1回開催しているもので、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。

今年度は、「知っているようで意外と知らない認知症の今」と題して、5つの講演を行いました。

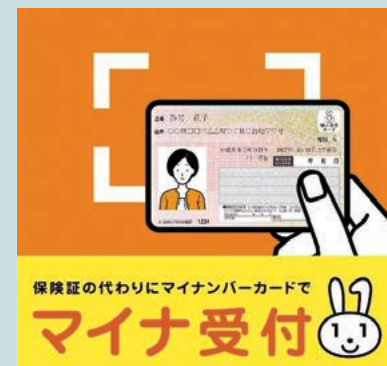
いずれの講演も、先生方がわかりやすく説明し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。当日は、会場参加・オンライン視聴合わせて、20代～90代の幅広い年齢層の約170名が受講しました。受講者からは「身近に感じているテーマで、とてもためになる講座だった。機会があればまた参加したい」という声が多数聞かれました。



電子処方箋開始

当院では、令和7年4月1日より、電子処方せんの取り扱いを開始します。電子処方せんを希望される患者さんは、院内に設置された顔認証付きカードリーダーにマイナンバーカードをセットして、「電子処方せんを希望する」を選んでください。また、診察室で直接医師・歯科医師に電子処方せんを希望しますと伝えていただいても結構です。なお、お薬は電子処方せんに対応した薬局で受け取りをお願いします。

今までのように紙の処方せんを選択することもできますので、ご都合のよい方法をご選択ください。



院内患者図書室(つくし文庫)の再開について

院内患者図書室(つくし文庫)は、新型コロナウイルス感染症の影響で利用を休止していましたが、令和7年2月から再開いたしました。

感染対策を講じるため、以下のとおり利用いただける曜日・時間が決まっております。皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

〈場所〉中央診療棟 A 2 階

〈利用可能日〉

外来患者さん：火・木曜日

入院患者さん：水・金曜日

(休日祝日年末年始を除く)

〈利用時間〉10時～13時



Nagoya Disease Information Center ナディック通信



ナディックホームページ

ナディックからのお知らせ

患者情報センター(広場ナディック)では患者さん自身が医療に関する情報収集ができるよう、一般的な医学書やパンフレットの閲覧、DVDの視聴等ができます。

新型コロナウイルス感染症の影響により利用を一時休止していましたが、令和6年3月より利用を再開しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

今後は患者さん向けの勉強会などの開催も予定していますので、詳しくは病院ホームページもしくは院内掲示でご案内させていただきます。

〈利用可能日〉外来患者さん：火・木曜日

入院患者さん：月・水・金曜日

〈利用時間〉平日10時～13時(休日祝日年末年始を除く)

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)



特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟1階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL：<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます！



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

